すぎ去りし日の…（1970）

LES CHOSES DE LA VIE

メディア 映画
ジャンル ドラマ　ロマンス
製作国　フランス
色彩　Color
時間　88分
初公開日 1971/10/15
公開情報 ＣＯＬ

【キャッチコピー】
木もれ日の朝よ　きらめく海よ　恋よ　いまはすぎ去りし日の……

【解説】
　自動車事故で死にかける建築家（ピッコリ）がまさに人生を走馬灯のように回想する。３２年来の親友との少年時代なども想い浮かぶが、専ら、妻との日々や愛人（シュナイダー）との出会い、成長した息子と過ごしたよき時間などが思い出される。と同時に、事故を冷静に見つめる自分がいる。彼は妻と別居状態にあり、同棲中の愛人といよいよ入籍を考えていた。が、子供の時からヴァカンスに行っていた島の別荘で久々に家族サービスすると決め愛人と揉め、思い余って彼女宛ての別れの手紙をしたため、それを胸に仕事先へ車を飛ばしていた所だった。しかし、途中で彼の気持ちは翻り、愛人に愛の告白の伝言をする。彼女はそれを聞いて車で後を追う。と、彼の車がメチャクチャになって道端にあるではないか。慌てて病院にかけつけるのだが……。臨死の感覚が実にうまく表現されていて、執拗に繰り返される事故場面で、加害者だけでなく警官や救急隊員などの表情も克明に映し出されるのが、後の幻想シーンで功を奏すあたりがうまい。シュナイダーも美しいが、妻に扮する「好奇心」のマッセリが魅力的で、映画に現実味を与えている。９４年にハリウッドで、リチャード・ギア、シャロン・ストーン主演で「わかれ路」としてリメイクされた。

【クレジット】

監督	クロード・ソーテ	Claude Sautet
脚本	ポール・ギマール	
	ジャン＝ルー・ダバディ	Jean-Loup Dabadie
	クロード・ソーテ	Claude Sautet
撮影	ジャン・ボフェティ	Jean Boffety
音楽	フィリップ・サルド	Philippe Sarde
出演	ロミー・シュナイダー	Romy Schneider
	ミシェル・ピッコリ	Michel Piccoli
	レア・マッセリ	Lea Massari
	ジェラール・ラルティゴ	Gerard Lartigau
	ジャン・ブイーズ	Jean Bouise
	ボビー・ラポインテ	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.